

現地調査に行ってきました

石原都政は、都民の反対を無視して、築地市場（中央区）を、高濃度の有害物質で汚染されている江東区豊洲の東京ガス工場跡地に移転しようとしています。

7月15日、新宿の大山とも子都議事務所が、「活きのいい築地市場と汚染の豊洲」と銘打って現地調査バスツアーをおこないました。総勢27人、富田なおきも参加しました。

築地市場の移転予定地となっている江東区豊洲の東京ガス工場跡。新交通「ゆりかもめ」の駅名は「市場前」となっているが、乗降客は誰もいない。



ベンゼン(発がん性物質)は環境基準の4万3000倍



築地市場で説明を聞き、メロンのせりを見学しました

「食の安全」
が危ない!

築地市場の豊洲への移転は撤回を!

築地市場

世界一の規模の生鮮市場

1935年にできた築地市場は、1日に水産物2090トン、青果物1183トン(2006年度)を扱います。とくに水産物は全国の要、配送は日本全国のほか、外国にも及ぶそうです。規模は世界一、食文化の中心で発信地でもあり、「築地ブランド」といわれるゆえんです。毎朝買い付けに来る小売業者やお寿司屋さんなどを含め、独自の文化を形づくっています。

最初に青果を扱う市場へ行き、元築地市場青果仲卸専務の佐藤龍雄さんから、市場やせりの仕組みについて説明を聞き、メロンのせりを見学。次々と値段が決まってゆく様に圧倒されました。

次は水産市場へ。現在は一般の客も市場内で買い物をするのができます。仲卸のお店では、割と少量でも気さくに売ってくれ、おすすめめの魚を聞くと、親切に教えてくれました。

豊洲

猛毒のシアン化合物も

午後は、佐藤さんと、東京ガス豊洲工場に1957年から76年まで勤務された伊野正之さんにお話を伺いました。下の写真は、伊野さんがガスを精製するときの様子を再現してくださったもの。タオルを2枚使い、目だけ出して作業したそうです。汗と有毒ガスでタオルはすぐに黄色くなったそうです。有毒ガスは液体となり、有害物質を捨てた場所以外にも、周囲の地面に落ちていたといいます。

都が今年実施した調査では、発がん性物質のベンゼンが環境基準の4万3千倍、猛毒のシアン化合物が860倍検出されています。

7月26日、都の「専門家会議」は豊洲移転を容認する最終報告書をまとめ、土壌を入れ替えればOK、汚染対策費用はすごい額になる、と無責任なことを言っていますが、聞けば聞くほど論外だとわかります。



広がる反対の声 力を合わせましょう

石原都政は、築地市場を豊洲へ移転させて、跡地にオリンピック招致にあわせてメディアセンターなどを建設する計画に固執しています。

しかし、汚染された豊洲への移転には、築地の魚・青果物のプロをはじめ、都民の反対運動が広がっています。日本環境学会の畑明郎会長(大阪市立大学大学院教授)は、「いくらコストをかけても、汚染を完全に浄化することはできません、食品を扱う場所としては危険というしかない」と指摘しています。

築地市場の汚染地への移転を撤回させるため、力を合わせましょう。



日本共産党衆議院東京1区若者相談室長

富田なおき
事務所ニュース

9 2008.8.10

発行：富田なおき事務所

〒162-0065 新宿区住吉町11-25
TEL 03-3357-3392 FAX 03-3353-4912
E-mail:tomita-naoki@nifmail.jp

富田なおきの生いたち

「戦争は絶対だめ！」
祖父母からは、物心ついた頃から戦争の話が聞かされ、その後の自分の生き方に大きな影響をうけました。父方の祖父は、パン職人でしたが、2回徴兵されました。一度目は海軍に入り、天皇のお召し艦「比叡」に乗った時、天皇から直接声をかけられたことを自慢にしています。二度目は世

界大戦の最中で、「大鳳」が撃沈された時は泳いで助かるなど、二度も死に損なつた兵士としての経歴を誇りにしていました。毎年、軍の記念日にはZ旗を掲げたり、戦死した地元の有名軍人の墓参りに連れて行かれたりしました。その祖父が、晩年は「戦争は二度としてはならない」



と言つようになりました。母方の祖父は、その兄が戦死したこともあってか、「戦争は絶対だめ」と確固とした信念を持っていたことを、子供心に感じていました。祖母も進駐軍の無法ぶりにいやな思いをもち、「戦争はいやだ」と口癖のように話していました。



先頭右端が富田なおき。左端は、北海道からの通し進行者の渡邊正郎さん（7月24日）



新宿区西落合で開かれた「語るつどい」。41人の方が参加。「国民の声と日本共産党の奮闘で政治が動いている」こととお話しました（7月27日）

夏の行事、各地域で多彩に



各地の夏祭りや盆踊りなどにおじゃましていきます。写真は、7月26日、港区芝浦3・4丁目町会と芝浦商店会の祭りです。大滝実区議と一緒に参加しました。親子連れがたいへん多く、町会役員の方は「子どもが増えて、祭りでは人口増のよい面がでているね」と話してくれました。

核兵器のない世界を！

国民平和大行進

今年で50回目となる平和大行進に参加。新宿実行委員会のみなさんと一緒に、新宿区役所から文京区・後楽公園まで歩き、核兵器廃絶を訴えました。

千代田区神田神保町でとくとめ道信さんと街頭宣伝（7月25日）



日雇い派遣原則禁止 規制強化へ転換

厚生労働省 研究会報告

厚生労働省の「今後の労働者派遣制度のあり方に関する研究会」は7月28日、日雇い派遣の原則禁止などを盛り込んだ報告書をまとめました。報告書は、日雇い派遣については「労働者保護の観点から禁止すべきである」と指摘。危険度が高い業務などを禁止対象とし、禁止期間は、厚労省指針が「30日以内」を対象としていることを参考に、短期雇用についても禁止するよう要請しています。違法派遣に關与した派遣先に対し、労働者に雇用契約を申し込む義務を課し、行政が直接雇用を勧告する

制度を設けることを提起しました。85年の制定以来、規制緩和が続いてきた労働者派遣法は、抜本改正の世論が広がるなかで、規制強化へ転換せざるをえなくなりました。同時に、報告書では、登録型派遣にメスが入っていないなど、問題点も数々あります。報告書は、労働政策審議会で議論され、厚労省は10月初めにも法案を国会に提出する予定です。小手先の見直しにとどめず、抜本改正に実らせるために、力をあわせ、運動を広げましょう。

厚生労働省に派遣労働者の待遇改善を要望

富田なおきは7月22日、日本共産党都委員会、民青同盟都委員会のみなさんと一緒に、厚生労働省に派遣法見直しの検討状況を聞くとともに、派遣労働者の待遇改善を要望しました（写真）。

参加者は、「交通費が全額自己負担では生活できない」「引越作業のためトラックで山奥まで連れて行かれ、『残業代は払わないが、残業がいやなら歩いて帰れ』と言われた」など深刻な事例を紹介し、「若者が未来に夢や希望をもって働けるよう、派遣法改正や、企業への指導を進めるべきだ」と



要求しました。

厚生労働省は、残業代不払いについて、「労働基準監督署に言えば指導するので、相談してほしい」と述べました。